

今後の拡大が懸念されるアフガニスタンのアヘン生産

～ 2005 年のアヘン生産量は 4100 万トン ～

2006年 7 月 2 日 (日)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

～ 要 旨 ～

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

アフガニスタンは「黄金の三日月地帯」の一角を構成する。「黄金の三日月地帯」とは、アフガニスタン、イラン、パキスタンを結ぶ一帯のことを指し、ミャンマー、タイ、ラオスの国境を結ぶ「黄金の三角地帯」と並び世界有数のアヘンおよびヘロインの生産拠点となっている。

タリバン政権は96年の首都カブール制圧以降、軍事資金調達のために、アヘンの原料となるケシの栽培、およびヘロインの製造・密売を奨励してきた。国際連合の推計によると、アフガニスタンは99年において4565トンのアヘンを生産しており、これは世界全体のアヘン生産量（5764トン）の79%にも及ぶ。アヘンのもとになるケシの栽培は主に北東部のジャララバードで行われている。

ケシから抽出したアヘンは、その後、カブールに運ばれてアヘンとして密売組織に販売されるほか、国内の工場ではヘロインに精製したうえで販売されるケースもある。

タリバンは99年まで農家が収穫したケシの売上高の1～2割を税金として徴収、99年のケシ栽培に関わる税収は4000万ドルを超えたともいわれる。

アヘンやヘロインの半分近くはイランやパキスタンなどの中央アジア諸国に、残りは欧米諸国やロシアに密輸出している。国内においてもカブールやカンダハルなどの都市部でヘロインの密売が行われているという。

しかし、タリバンの最高指導者オマル師は2000年7月にこれまでの政策を転換し、「反イスラム的」という理由でケシの栽培を全面的に禁止するようになった。このためアヘンの生産は激減し、2000年の生産高は3276トン、2001年はわずか185トンまで生産量が縮小した。

もっとも、タリバン政権が崩壊した後は、政情不安などから生産量が再び拡大し、相当な量に上るアヘンが市場に出回り始めている。2004年のアヘン生産量は4200トンまで拡大、2005年の生産量も前年に比べると若干減少したものの、4100トンと高水準を維持した。ケシの作付面積も10万6400ヘクタールと巨大だ。人口の8.7%に相当する約200万人が栽培に従事しているといわれる。

アフガニスタン政府は、違法ドラッグの取り締まりを強化しているが、国全体を十分に統治できておらず、今後もアヘンの生産量は増えていく可能性が高い。カルザイ大統領は、アヘンの生産を撲滅するには、少なくとも10年の期間が必要であると述べている。